

主催：公益社団法人日本語教育学会

共催：東京外国語大学

開催日：2018年5月26日（土）・5月27日（日）

会場：東京外国語大学府中キャンパス（東京都府中市）

日本語教育学会では、最新の研究と実践の成果の発信・共有や、参加者間の交流・ネットワーキングの促進を目的とした大会を年2回（春・秋）開催しており、大会委員会はその企画・運営を行っています。今年度の春季大会は、東京外国語大学において開催され、1,360名の参加がありました。一般公開プログラム（日本語教員養成の新しい役割と可能性－日本語指導が必要な子どもたちを取り巻く学習環境を手がかりとして－）には一般参加を含め419名の参加があり、参加者からの質問も積極的に出されていました。公募によるパネルセッション6件、口頭発表19件、及び、ポスター発表32件の発表が、審査・運営協力員の協力を得て行われ、各会場では会場に入りきれないほどの参加者で大変盛況となりました。参加者による事後アンケートでも概ね好評で、満足していただけたようです。このほか、ふらさ da わかば（チャレンジ支援委員会）、Net-J（学会連携委員会 Net-J 部会）、科研申請アドバイスセミナー（調査研究推進委員会）なども同時開催され、充実した2日間になったと思われます。26日（土）に行われた懇親会には115名の参加者があり、参加者同士の積極的な交流が見られました。大会プログラム及び発表要旨は[こちら](#)をご覧ください。



一般公開プログラム（26日）



開会式・会長挨拶（26日）



ポスター発表（27日）



口頭発表（27日）

次回は2018年11月24日（土）・25日（日）にプラサ ヴェルデ（静岡県沼津市）にて開催予定です。

（文責：大会委員会）